

# 博士課程教育リーディングプログラム 平成23年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成23年度		
プログラム名	One Healthに貢献する獣医科学グローバルリーダー育成プログラム	申請大学長名	佐伯 浩
申請大学名	北海道大学	プログラム責任者名	山口 佳三
申請類型	オンリーワン型	プログラムコーディネーター名	堀内 基広

## <プログラム進捗状況概要>

### 1. プログラムの目的・大学の改革構想

#### <プログラムの目的>

「One World - One Health (一つの世界、一つの健康)」という概念が示すように、地球上の生態系の保全は、ヒトおよび動物の健康の両者が相まって初めて達成できるものである。その実現と維持のためには、ヒトと動物の健康維持に向けた取り組みが必要である。感染症および化学物質による健康被害からヒトと動物の健康な生活環境を守るために、ヒトと動物の健康維持および生態系の保全を担う使命を持つ獣医師および獣医科学の寄与が世界的に求められている。そこで本プログラムでは、「One World - One Health」の実現に向けて、我が国のみならず世界の獣医科学の発展に寄与することのできる人材の育成に加え、感染症病原体とそれによって引き起こされる感染症、ならびにケミカルハザードの本質とそれがヒト、動物および生態系に与える影響に関して、グローバルな視野と俯瞰力を持って当該分野の教育研究の推進および対策にリーダーシップを発揮できる人材を育成することを目的とする。

#### <大学の改革構想>

本学では第二期中期目標として、「国際的通用性を持つ柔軟な大学院課程を構築する」こと、「教育の国際的通用性を向上させ、学生の国際的流動性を高める」ことを掲げ、平成22年度に①本学の教育研究組織間の連携を強化し、教育機能の向上を図ることを目的として高等教育推進機構を設置するとともに、②外国人留学生の受入支援、国際的な人材育成を目的として国際本部を設置した。さらに平成24年度から高等教育推進機構に大学院教育部を設置して、リーディングプログラムの推進と大学院共通教育の企画・調整を行う。また、同じく第二期中期目標として、「世界水準の優れた研究者育成のための諸方策を次世代にわたる長期的な視点で継続的に実施する」ことを掲げ、平成21年度に博士課程学生等のキャリア形成の支援を目的として全国で初めて人材育成本部を設置し、若手博士研究者の社会進出を重点的に支援している。本リーディングプログラムでは、人材育成本部と連携して博士課程学生のキャリアパス支援の体制を一層強化していく。

本リーディングプログラムで実施する①外国人特別枠を設けて優秀な外国人留学生を獲得する入学者選抜制度、②英語により行う教育の強化、③海外のフィールドや機関での実践的な演習やインターンシップを取り入れた国際舞台における教育の単位化は、本学の中期目標を達成するための全学的なモデルケースとなる取組であり、国際本部とも連携しながら国際化を推進していく。さらに、本リーディングプログラムで構築する授業科目を本学の特徴の一つである大学院共通教育の充実のために活用し、医学、歯学、薬学その他の生命科学系の研究科の授業科目を充実させることで、全学的な大学院教育の改革を推進する。

## 2. プログラムの進捗状況

### <プログラム運営体制の構築、プログラム開始の準備>

平成23年度は、プログラム運営全体を担当する「リーディングプログラム運営委員会」および各役割を担当する「キャリアパス支援委員会」、「リーディングプログラム教務専門部会」、「リーディングプログラム学生支援委員会」、「広報委員会」、「人獣共通感染症対策専門家認定委員会」などを設置して、プログラム開始のための準備、制度整備を行った。

リーディングプログラム運営委員会では、キャリアパス支援委員会および学生支援委員会とも連携しながら、リーディングプログラムへの学生の選抜、奨励金受給に係る内規およびガイドラインの整備、大学院学生科学研究費支援制度、海外派遣支援制度、入学者選抜方法など、プログラムの運営上、重要となる制度の枠組みを整えた。一部内規の整備が終了していない箇所があるが、平成24年度早期に整備を終える。

リーディングプログラム教務専門部会は、研究科教務委員会内に常設されている大学院ワーキンググループと合同で本プログラムの大学院カリキュラムについて検討を開始して、平成23年度は実行教育課程表（授業科目、科目責任者、単位、開講期、使用言語など）の原案を作成した。平成24年度に、引き続き大学院カリキュラムの検討を続ける。

広報委員会はホームページの作成を進めて、ホームページを公開した (<http://www.vetmed.hokudai.ac.jp/onehealth/>)。平成24年度以降、ホームページのコンテンツの充実を図る。

プログラムの趣旨および理念の共有のため、平成23年度中に、リーディングプログラム全体会議を1回開催し、本プログラムの全体像および今後の活動方針について情報を共有した。さらに、獣医学研究科構成員への説明会を開催し、本プログラムの周知に努めた。

以上のように、平成23年度は、本プログラムの運営体制の整備、リーディングプログラムに選抜された学生を受け入れるための体制と大学院カリキュラムの整備を進め、平成24年度の大学院学生受け入れとプログラムの開始に必要な制度の構築を行った。

### <海外活動、海外機関との連携の推進>

平成23年度に2度国際シンポジウムを開催した。国際シンポジウム“Environmental Pollution and Food Safety in Africa”ではアフリカ諸国の研究者を招聘して、主に環境分野と食品衛生分野の問題点について議論し、地球規模での問題点について認識を共有した。“Establishment of International Core for Veterinary Education in Asia”ではアジア諸国の研究者を招聘し、大学院教育の国際化に向けた連携について議論した。招聘した研究者は、本プログラムで実施する大学院学生の海外活動のカウンターパートとなることから、大学院学生の円滑な海外活動への支援と協力を要請した。また、海外インターンシップの実施、海外実践疫学演習/海外共同研究演習の実施を予定している研究機関との連携を強化するため、教員を派遣して、インターンシップや演習の実施について協力を要請し、今後の方針について協議を進めた。

以上のように、平成23年度は、本プログラムの海外活動の海外拠点となる海外機関およびカウンターパートとなる研究者との連携を進めた。